

## 連合 2015 平和ナガサキ集会開かれる

# 「戦後70年、未来につなぐ平和への想い」

～全国から連合組合員など3,600名が参加～



「連合 2015 平和ナガサキ集会」は、8月8日（土）、長崎県立総合体育館メインアリーナを会場に、「戦後70年、未来につなぐ平和への想い」をスローガンに掲げ、全国から連合組合員など約 3,600 名が参加し開催された。連合福島からは派遣団として、双葉地区連合議長の関一さんを団長に、8名が参加した。

参加者全員による黙とうの後、主催者を代表して連合の古賀会長は、「2015年5月に開催された核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議において、連合の全組織をあげて取り組んだ、核兵器廃絶を求める720万筆の署名書を提出したが、残念な

平和ナガサキ集会に参加した連合福島派遣団の皆さんが核兵器廃絶の最終文書の合意、取りまとめまでには至らなかった。しかし、連合はこれまで以上に世界の恒久平和の実現をめざし、国際労働組合総連合（ITUC）や、原水禁、KAK|KIN等と連携し、職場や地域における核兵器廃絶運動を粘り強く取り組む。」と挨拶した。



翌、8月9日70年前原爆投下されたこの日、長崎は祈りの日を迎え、平和式典では長崎市長が平和宣言の中で、国の安全保障の在り方を決める法案審議を念頭において、「70年前に心に刻んだ誓いが、日本国憲法の平和の理念が、いま揺らいでいるのではないかと不安と懸念が広がっている。政府と国会には、この不安と懸念の声に耳を傾け、英知を結集し、慎重で真摯な審議を行うように求めたい。」と訴え、会場は大きな拍手に包まれた。

主催者を代表して挨拶する古賀連合会長

連合福島平和行動 in 長崎派遣団一行は、平和式典参加後、長崎平和公園、長崎原爆資料館等被ばく関係施設を中心に視察し、全行程を終えて8月10日福島への帰路についた。



長崎平和式典会場にて